

テニス部

「清和中学校」の思い出

御子神（旧姓 成川）直 美

もうすぐ四十年、中学生の頃が遠い昔のように感じます。毎日の生活に追われ、思い出を振り返る機会はありませんでしたが、母校が統合され「清和中学校」ではなくなると聞き、悲しい気持ちとともに中学時代の思い出が次々と蘇ってきました。

最優秀賞がとれず全員で泣いたクラス合唱、体調不良で参加できずに悔し涙を流した最後の陸上大会、総体での足首捻挫、高校受験……。その中でも特に印象に残っているのは、当時人気の「エースをねらえ」に影響されて入ったテニス部のことです。荒地を耕して雑草を抜き、ローラーを引いて皆で手作りしたプール脇のテニスコート、夜遅くまで練習した夏合宿、グラウンドの階段でよくサーブの練習をしたことも覚えています。「岡ひろみ」には程遠いけれど、仲間と汗を流して白球を追いかけたことに代わりはありません。部活動を通して、日々の積み重ねと諦めない気持ち、そして何より、チームワークやコミュニケーションの大切さを学びました。このことは、今でも自分の中の軸となっています。

こうして振り返ると、不思議と思い出すのは、苦しい中で精一杯頑張ったことばかり。人はその経験の中で学び、大きく成長していくものだと思えると同時に自分を育ててくれた「清和中学校」に感謝します。

いつまでもそこにあると思っていた「清和中学校」が、統合になってしまふのはとても寂しいことですが、記念誌名は「前進」です。さ

バスケットボール部

大好きな清和中

青 木 久 美

中学校の雰囲気にとドキドキしながら入部したバスケットボール部。一年生は私と私の妹二人と友人の四人。三島小学校と秋元小学校、鹿野山小学校から清和中学校へ集まり、出会うことができたかったいい先輩方。清和中学校は先輩との関わりも多く、よく面倒をみてもらった。一緒に練習に励んだあの日々が懐かしい。憧れの先輩方のプレイを見たり、レモンの蜂蜜漬けを差し入れたりと初めての部活という経験が楽しかった。顧問の石井和子先生は、部員数が少ない中での指導は大変だったと思うが、温かく、でも時には厳しく私たちを導いてくださった。大好きな和子先生の車で練習や試合会場へ移動をしたこと、また車中でのおしゃべりで仲を深められたことは特別な思い出として残っている。

しかし突然、バスケットボール部の廃部が決まった。少しずつ出来ることが増え、面白さを感じ始めていたのでショックだった。四人では試合には出られない。臨時の対応として、他の部活から助っ人に来てもらい、新人戦に出場することとなった。バスケットボール部の最後に、このような配慮で試合に出る機会を与えてもらえたことを本当に感謝している。その後、バレーボール部に転部した。不安もあったが、みんなが快く受け入れてくれたおかげで新たな仲間たちと一緒に最後まで部活に取り組むことができた。二つの部活を経験しながら、仲間たちと汗を流し、苦しい練習を乗り越え、悔しさや喜びを共にした三年間は、素敵な青春だったと思う。

卒業して二十年。大好きな清和中が統合されるのは悲しく、とつても寂しい。でも、子どもたちの未来を考えると必要なことなのかもしれない。自分の子がこれから保育園、小学校、中学校と上がる中で、新しく清和小学校となる「清和中」で清和の自然や歴史を感じながら、また、「周東中」で新しい仲間たちと大きく成長してほしい。私も清和への思いを大切に前進していきたい。

サッカー部

清和中サッカー部の思い出

吉 本 明 広

「仲間を信じて、最後まで走るぞー」夏の総合体育大会のハーフタイムで、ある選手が発した言葉です。時折思い出す忘れない瞬間ですが、この言葉の中に、清和中サッカー部のすべてが表れている気がします。

私は平成六年度から平成十三年度まで清和中でお世話になりました。清和中と言えば、自然豊かな学校と温かくて純粹で、どんな事でも精一杯取り組む生徒達によって、少人数でも様々な活動で活躍できる学校でした。そんな中、サッカー部は活動を始めました。

サッカーという競技は、一個のボールを挟み、勝利するためには、十一人全員が献身的に動かなくてはなりません。清和中の生徒は、素直で真つすぐなプレーが身上で、どんな時でも手を抜くことなくボールを追いました。初めて出場した総合体育大会では、三年生は三人しかいないチームでしたが、最後まで粘って走り切り、勝利したことは今でもはつきり覚えています。

また、当時のグラウンドは、気を抜くと膝の高さほどの草が生えてくる状態でしたが、サッカー部が活動を始めた頃、保護者の協力により、草が一本もない素晴らしいグラウンドに生まれ変わりました。地域の方の学校を大切にしようとする温かい心に触れ、感動と同時に、新しくできた部の指導に責任を感じていたことを覚えています。

『鍛えられているから美しい。』当時の校長先生が生徒に言った言葉です。この言葉の通り、自分を磨くこと、人を信じること、相手を思いやること、もっと伸びようと自らを鍛えること……そんな心を育む土壌が、清和にはありました。だからこそ、冒頭に述べた『仲間を信じて……』という言葉が自然に出てくるようなチームができたのだと思います。

清和中で過ごした時間は、大きな財産です。これから先も、この素晴らしい地域の中で、温かくて、真つすぐな清和つ子が育つことを願っています。

陸上・駅伝

練習は嘘をつかない

落合 さゆり

私が陸上競技の中で砲丸投げを始めたきっかけは、校内陸上大会で取り組んだことでした。それから急遽立ち上げられた「陸上部」に所属することとなり、更に砲丸に取り組む時間が増えました。指導してくださったのは、松本穆先生。砲丸の持ち方や基本的な姿勢を丁寧に指導くださいました。先生の熱心なご指導に沿うような結果が出せず、悔しさや不甲斐なさで涙を流すことが何度もありました。

先生の教えから学んだことで、今でも心に残っているのは、「基本は教わる。工夫は自分で。」ということ。なぜ遠くまで飛ばないのか、なぜフォームが決まらないのか、など、松本先生のご助言を受けつつ、試行錯誤したことで、思うような記録が出たときの喜びに繋がりました。教わったことを忠実に、繰り返しすることも大切ですが、自分で考え、行動したからこそ味わうことができた達成感が、夢中になることができた理由の一つとなったと思います。

中学校で、生徒の皆さんに教える機会をいただき、当時を思い出しながらグラウンドに立つと、一球一球緊張感を持って練習に取り組んだ日々が思い出されます。現在でも中学校女子砲丸投げの自分の記録が残っていると聞いていますが、やはり先生方のご指導や家族、友達の励まし、そして練習の成果がこの記録を作ったのだと思います。「練習は嘘をつかない」ということが唯一の秘訣です。ぜひ、いつか、私の記録を超える素晴らしい選手が現れることを楽しみにしています。

二刀流で頑張った三年間

澤 邊 佳 子

今から二十七年前、私は清和中学校へ入学しました。三年間の中学校生活で一番思い出に残っている事は、部活（バレー部）と陸上（走り幅跳び）です。陸上の時期は、陸上部がない為掛け持ち練習でした。

陸上練習では、四×一〇〇Mリレーの練習をしていましたが、市の大会を目前に、先生から「澤邊さんは走るのが速いから、走り幅跳びをやってもらえ」と言われた事がきっかけで幅跳びと出会いました。

練習を始めてみると四M以上の記録が出せたので、自分でもこれならいけると自信がつき、頑張って練習をし、君津支部の大会、女子一年走り幅跳びに出場し四M六十を跳び自分でも驚きました。結果は一位。この記録が県標準記録の四M五十以上の記録だった為、県通信陸上に出場する事になりました。

清和中では私一人だったので、県総体、通信陸上県大会迄の練習は、部活前の三十分間。走って、跳んで、ならしての繰り返しを自分でやり夏休みも部活の合宿の間で、県総体へ出場し、中学校の体操服にゼッケン姿は私だけでとても惨めな思いをしました。一緒に来てくれた小野寺先生が私の気持ちに気付いてくれたのか、学校でユニフォームを作ってくれました。その新しいユニフォームを着て県通信陸上へ出場し、ユニフォームのお陰でモチベーションが上がったのか、六位に入賞する事が出来て嬉しかった。二年生の陸上大会、新人陸上でも走り幅跳びに出場し、市の大会、支部の大会で一位になり県総体へ出場する事になりましたが、バレーと陸上の二種目両方で県総体に、出場する事が出来ない為、私はとても悩みました。陸上個人で行くか団体バレーで行くのか悩みましたが、バレー部のキャプテンをやっていたので、最後の県総体は仲間と一緒に部活（バレー）で行く事を決め、陸上練習は終り、バレーの練習に全力投球しました。

清和中での三年間のとても心に残る体験、経験をした事、二刀流でやっていた事は大切な思い出です。

最後になりましたが、創立五十年おめでとうございます。

ジュニアオリンピック八位

眞板 智紀

私は、小学生の頃から陸上の投擲種目を続けてきました。小学生の頃は、ヴォーテックス投げという競技をやっていました。小さい頃から野球が大好きで、常にボールを投げていた為、肩には自信がありました。

小学四年生からヴォーテックス投げを始め、小学六年生の時には、県で一位になることができました。とても嬉しかったことを今でも覚えています。

中学生になり、ジャベリックスローという競技に出会いました。それは、小学生の時やっていたヴォーテックスとは違い、より高い技術が必要とされるものでした。最初の頃は、全く真つ直ぐ飛ばずに、とても苦労しました。先輩と練習をしていくと真つ直ぐ飛ばせるようになり、少しずつ距離も出せるようになりました。二年生の時には、県で七位になることができ、三年生の最後の大会では、県で一位になり、ジュニアオリンピックに参加する権利を得ることができました。その年の十月、ジュニアオリンピックに出場し



ました。ジュニアオリンピックは、神奈川県にある日産スタジアムで開催されました。前日練習をしている時から、とても緊張していました。

大会当日、実際に日産スタジアムに入り、競技が始まりました。緊張はなくなり、大会を楽しむことができました。記録は、六十メートル投げることで、全国で八位に入賞することができました。この時は、言葉に表せないくらい嬉しかったです。

投擲種目と出会わせてくださり、小学校の時から合計五年間御指導いただいた青木先生にとっても感謝しています。ジュニアオリンピックという全国の舞台に立てたことは、私の一生の宝物です。

文化・学習的業績

清和中学校での出逢い

福 嶋 望

地元で唯一の中学校で自分の親世代からある懐かしい場所、それが清和中学校です。三十路を過ぎて子育てに奮闘中の私にとっては、本当にかけがえのない環境と時間だったなあと、しみじみと感じています。

私の学年は、節目の三十期卒業だったこともあり、創立三十周年記

念式典の開催に携わることができ、貴重な経験をさせて頂くと共に、今まで積み重ねてきた伝統と歴史の重さを実感したのを思い出します。

また、記念誌の発行に伴い表紙の題字を全校生徒から応募し、その中から自分の書いた『前進』が選ばれた時は、驚きとうれしさの反面「本当に私なんかの字でいいのか？」と不安になりました。そんな私に、当時国語の担当教員だった先生がさりげなく話しかけて下さり、優しく「自信もって」と背中を押してくれたこと、今でも心に残っています。生徒一人一人に向き合い、温かな御指導を下さった諸先生方に本当に感謝しています。

大自然の中で仲間達と、おおらかに逞しく過ごした三年間は、楽しいことも辛いことも嬉しいことも悲しいことも色々あったけれど、五感をつかって感受性豊かに生活することの意味や素晴らしさを教えてもらった気がします。

体育祭や合唱、部活や駅伝など、クラスや全校生徒で協力して何かを成し遂げた後の、夕暮れ校舎前で感じる山々からの心地良いそよ風が、私は大好きでした。なにがあっても時が経つにつれて前向きな気持ちにさせてくれました。

あれから二十年、清和の地を離れ別々の場所でちよつと大人になった今でも、あの時出逢えた仲間にはヨボヨボになるまで付き合っていきたい存在です。創立五十年統合を来年度に迎え、清和中学校の名前はなくなってしまうけれど、沢山の経験と思い出は自分たちの心に糧となつて残っています。在校生の皆さんも、清和で出逢えた仲間や、そしてこれから出逢う人とのつながりを大切に、一步一步前へ進めることを願っています。

4月下旬
ウーパールーパー
誕生

玄関の水槽にいる2匹のウーパールーパー。10年前に君津青葉高校生物部からいただき10歳の長生き。4月の初旬に産卵、下旬に孵化し、たくさん孵化した中で、唯一1匹が元気に成長しています。5か月ほどで形状が親と同じになり、みんなの可愛いアイドルとなっています。



1年松本泉海さんの作品

8月

7月30日(月)
}

8月9日(木)
福祉体験学習
2年生

2年生が7月30日～8月9日までの日程で各事業所2日間、清和保育園、介護施設のなごみの郷、山っこデイサービスの3か所で、2～3人ずつに分かれて、福祉体験学習を行いました。

保育園では、けん玉を教えたり一緒に水遊びをし、介護施設では食事の介助や一緒に歌ったりソーラン節を披露したりしました。楽しいだけではなく、安全面やいろいろなことを考えながら仕事をするの大変さも学ぶことができました。



11日(木)
清和地区敬老会

清和地区敬老会に1・2年生が参加し、合唱とソーラン節を披露しました。



実行委員会組織

実行委員長		現PTA会長	溝口 正幸
副委員長		前PTA会長	平田 大介
顧問		初代PTA会長	服部 基吉 (総務)
		学校評議員	伊藤 修一 (総務) 金網 誠 (編集) 落合さゆり (総務)
		地域代表	石橋 誠治 (事業) 青木 哲也 (編集) 植松 尚人 (編集)
		清和中同窓会長	加藤 博之 (事業)
		清和中学校校長	山口 浩 (事業)
総務部	部長	元PTA会長	矢部 貴樹
	副部長	PTA副会長	平野 恭枝
	事務局	教 頭	空閑 一
	補助役員	教 諭 等	舌間 馨 井之上哲也 今井 里美 山下 章吾 花沢 祥子 唐鎌 紗絵
		PTA本部 学年理事	鈴木 秀俊 大野 悦子 小泉さゆり 鹿島 舞子 柴寄 稔 成川佳代子 服部 敏江 (渡辺 梨江)
編集部	部長	元PTA会長	図師 秀敏
	副部長	PTA広報委員長	鈴木 由香
	事務局	事務長	青木三七浩
	補助役員	教 諭 等	刈込由美子 鈴木美香子
		広報委員	下田 牧子 渡辺 梨江 山田 昌子 (平野 恭枝)
事業部	部長	元PTA会長	芝崎 幹夫
	副部長	PTA教養委員長	佐野 仁美
	事務局	教務主任	松本 和洋
	補助役員	教養委員	石井 優子 森 薫 大曾根英樹 図師 里奈 萱野 慶子 隈元ゆめみ 山本 みき 佐藤 綾子 遠藤 忍